

発寒ひかり  
保育園だより

2022年  
7月号

巻頭言

ばんびぐみ（4歳児）の子どもたちは去年から、お散歩の際にトングを片手に、ごみ拾いをしていました。先日のお散歩では公園の中だけでなく、道に落ちているごみを探しながら向かうことに。見つける度に「ここにも！」と、とても小さなごみまで見逃さず、公園に着いても遊びそっちのけでごみを探していました。「なんでこんなにおちてるのかな」「ごみぶくろなかったのかな」と素直な疑問を感じていたようです。

みんなが拾ったごみを持ち帰ったとき、ただ捨てるのではなく、分別することでごみとして捨てられた物も生まれ変わりを伝えました。すると目を輝かせ、「じゃあごみはたからものだね！」とRくんが言いました。周りの子どもそれを聞いて、「おうちでもおかあさんにいってみる！」「うちはきいろのごみぶくろにいれてるよ」と話が盛り上がり、持ち帰ってすぐに分別できるよう、園の玄関に置く手作りごみ箱を作ることになりました。保護者の方からも「これはなにごみ？」「なににへんしんするの？」と聞いてくれることが増えたという嬉しいお話がありました。

初めは宝探しのようにごみ拾いをしていたのが、ごみの種類や分別に興味を持ったり、疑問を感じたりして、すぐに行動できる子どもたちの姿に、大人の私たちも環境問題について他人ごとではいられないと感じさせられました。

これからも子どもたちの素直な気持ちを大切に、大人も一緒に身近なところからできることを考えながら行動していきたいと思います。

くりファミリー・ばんび組担任 太村 朱里